

乙女高原が好き！ 2002 号

乙女高原は春から夏へと

今年は新型コロナウイルス禍のため、さまざまな行事がとりやめになっていますが、乙女高原ファンクラブでも総会、遊歩道づくり、スミレ観察会、第1回目のマルハナバチ調べなどをやむなく中止としました。

訪れる人もほとんどいない中でも、季節はめぐり、高原は春のスミレの時期が終わり、レンゲツツジも咲き終わってアヤメが咲き、いよいよ夏の花たちが咲き始めます。マルハナバチなどさまざまな昆虫も活発に活動を始めています。

多くの人に来ていただいていた行事はできませんでしたが、必要な作業や観察は少人数で行ってききましたので、今回のニュースレターはそれらの報告をしていきます。



新しい遊歩道ができました

5月17日(日) 記事：植原 彰

本当に困りました。コロナの影響で遊歩道づくりができません。でも、夏のことを考えると、せめてロープ張りだけでも行わなくてはなりません。でも、その打ち合わせができません。公民館・市民会館等、打ち合わせをできる場所が軒並み休館しているからです。

市が助け舟を出してくださいました。市役所の会議室を貸してくださったのです。3密を避けるために、窓は開け放し、席は一つおき、そして、議事も最低限にして短時間で終わられるようにしました。話し合いの結果、以下のようになりました。

- ・ イベントとしての(=人を集めての)遊歩道づくりは中止とする
- ・ 世話人、案内人、市・県職員のみ呼び掛ける
- ・ 10日(日)の9:30からファンクラブ中心に行く。雨天中止
- ・ 初めの会や終わりの会はなし。各自で作業していただく
- ・ 谷地坊主への遊歩道づくりを優先して行う
- ・ 13日(水)には市とファンクラブが中心となって、残りの遊歩道づくりを行う
- ・ 杭は市の予算で購入し、下の駐車場とロッジ前に置いておく

やっと計画が立てられホッとしたのもつかの間、林道の閉鎖期間が延長され、10日(日)、13日(水)の作業ができなくなってしまいました。しかたがないので、遊歩道づくりを17日(日)に延期したのですが、その延期連絡がうまくつかない方がいて、ご迷惑をかけてしまいました。

そうやって迎えた17日(日)は、とてもいい天気でした。「初めの会はなく、各自で作業をする」つまり「勝手に作業する」ということなので、さっそく谷地坊主への新しいルートに沿って、杭を置いていきました。4月の観察交流会に参加した皆さんがルート沿いに園芸用の緑のポールを刺してくれていたの、あとは位置を微調整すればいいだけでした。一部に旧遊歩道の杭を使いましたが、地面の下の部分は思いのほか腐って細くなっているのが多く、びっくりしました。

そのうち、古屋さん、三枝さん、…と多くの方が来てくれ、それぞれロープを運んだり、杭を地面に打ち込んだりと、それぞれの作業をしてくださいました。



結局、この日来てくださったのは、市職のお一人を入れて13人。「この人数で作業が終わるかな」と心配になりましたが、谷地坊主への新ルートも完成し、全コースの遊歩道にロープを張ることができ、しかも、そのロープに「草原に入らないでください」などの看板をつるす作業もできました。1日をフルに使ったのではなく、「終わって遅い昼飯を食べる」程度の時間で済みました。なんといっても21回目(=21年目)の作業ですからね、皆さん手慣れたものです。

谷地坊主への新ルートについて説明します。

「下の駐車場」から急坂を下りて湿地に向かうというのが旧コースでしたが、急坂の部分での土壌流失がひどかったです。県の事業で階段を作ってもらいましたが、それでもだめで、階段の脇がえぐれて、深い谷になっていました。一方、山梨ロータリークラブの皆さんが発足50周年記念事業の一環として、昨年11月に新しく設置していただいた谷地坊主の解説板を生かすよう、解説板の前が広場になるよう遊歩道ルートを変更するのが課題でした。

今回、新たに作った谷地坊主への遊歩道はこの2つの課題を同時に解決した画期的なものです(と素直に自画自賛できるほど、すばらしいアイデアだと思います。あ、ぼくのアイディアではありませんが)。

旧ルートでは、斜面の高低差が大ききところをまっすぐ下って下っていましたが、今度のルートでは高低差が小さきところを斜めに下っています。これで土壌流失は起きないと思います。また、谷地坊主解説板への遊歩道を「袋小路」としないで、遊歩道のうち解説板周辺の部分を膨らませて、そこに多くの方が滞在できるようにしました。遊歩道の一部が太くなっているだけなので、人の流れもスムーズにできると思います。

コロナが下火となり、乙女高原に行けるようになったら、ぜひ、この遊歩道を歩いてみてください。

※ ※ ※

この日の午後、有志9人が各自で「スマリの観察」をしました。アカネスミレ、アケボノスミレ、エイザンスミレ、サクラスミレ、シロバナサクラスミレ、タチツボスミレ、ニョイスミレ、ヒゴスミレ、マルバスミレ、マンジュリカと10種類のスマリを観察することができました。

ウエハラは皆さんとは別行動でした。ヤマアカガエルの産卵調査をするたびに、以前からずっと気になっていた湿地のゴミを拾いました。空き缶よりも空き瓶が多かったのにはゴミの年代を感じます。肥料袋やレジ袋の中には劣化して粉々になりそうなものもありました。これがマイクロプラスチックとして海を汚染していくのでしょうか。

さすがにこの日は疲れたので、いろいろ終わった後、早々に温泉…ではなく、家の風呂に入りました。



谷地坊主への新遊歩道ルートも探索

4月4日(土) 記事:鈴木 辰三

4月4日、今年度最初の自然観察会交流会が開催されました。コロナウイルス感染が広がっているためか、参加者は少なく3名でした。全員マスクを着用して、普段は乗り合わせる車も別々にするなど、いつもと違う雰囲気です。それでも春の装いの乙女高原を楽しみに、また今回はヤマアカガエルの産卵調査も行うことを決めて高原へと向かいました。

まずは毎年カタクリが見られる山の神付近で車を止めました。カタクリの開花にはまだ少し早いようでしたが、代わりにたくさんのヒナスミレが咲いていました。近くで成虫越冬したテングチョウが飛んでいます。よく見ると羽がボロボロです。生き物が冬を越すことの厳しさを感じます。

次に通称カエル池で途中下車。先月の観察会でヤマアカガエルの卵塊を16腹見つけたところです。かろうじて1腹だけが卵塊の形を残していましたが、残りはすべて孵化してオタマジャクシになっていました。ヤマアカガエルは年1回の産卵期に、成熟したすべてのメスが1匹あたり1つの卵塊を産卵します。そのため卵塊の数を数えることで生息する個体数を把握することができるのです。

さらに車を進め、例年ネコノメソウが群生している沢の斜面を降りてみることにしました。期待通りツルネコノメソウとハナネコノメソウがたくさん咲いていました。少し離れたところにはコガネネコノメソウが咲いていて、計3種類のネコノメソウの仲間を楽しむことができました。バイケイソウやハシリドコロも芽を出し始めています。また、沢の中の石をそっと裏返してみると、カワゲラやトビゲラの幼虫が動いています。水辺の虫や魚たちも賑やかになりそうです。



木道の湿地と駐車場下の湿地でヤマアカガエルの卵塊を確認しました。木道の卵塊数は9腹あり、いずれもかなり崩れかけていました。駐車場下の湿地は2腹でした。こちらかなり崩れています。湿地から少し目を離すと何かごそごそ動いているものがあります。越冬から目覚めたヒメツチハンミョウです➡。あたりを見渡すと他にも数匹見つけることができました。早々に交尾をしているカップルもあり思わず見入ってしまいます。周りではバッコヤナギの白い輝きが印象的でした。

あちこち寄り道をして、結局高原に着いたのは12時を過ぎてしまいました。ロッジ前の温度計は15℃、暖かいです。昼食後は来月の遊歩道作りの前準備として、杭の点検をすることにしました。腐って折れそうな杭に、目印として園芸用の支柱を立てて回ります。その結果、30本ほど交換が必要と思われる状態でした。また、昨年設置した“谷地坊主の案内板”に誘導する歩道も新たに作らなければなりません。ホソバツルリンドウなどの株を避けるようにコースを取ってみると、40本程度の杭が必要になりそうです。いろいろ作業をしていると乙女高原が多くの人の手によって維持されてきたことをあらためて実感しました。

一通りの作業を終えたあと、帰りは塩平方面へ抜ける林道を通ることにしました。マンサクの花が見ごろではないかとの情報でしたが、ほとんど終わりになっていました。一方ダンコウバイの花が満開で、アブラチャンはまだ冬芽が開くのにしばらくかかりそうな状態でした。それぞれ春を代表する黄色い花ですが、開花時期の微妙なずれがおもしろく感じます。ツノハシバミの赤くてかわいい雌花も目を引きます。この林道にはスマレの群生地が何か所かありますが、まだ早いようでひとつも見つけることはできませんでした。次回の観察会におあずけです。

コロナウイルスの影響は長期化しそうです。ひとりひとりがしっかりと対策を取って自粛すると同時に、たまには乙女高原に出向いてリフレッシュすることも大切ですね。

今年もたくさんのスマレが咲きました

5月6日(水) 記事:井上敬子

今年は新型コロナウイルス感染防止のため、例年行われているスマレ観察会も中止になってしまいました。林道のゲートも例年なら、ゴールデンウィーク前には開くのに、今年は閉じたまま……。ですが、定期的に高原の観察を続けている観察交流会の常連メンバー4名で、感染に気をつけながら、乙女高原の様子を見に行くことにしました。いつもなら道の駅に集まって、誰かの車に相乗りで行くのですが、今回はそれぞれの車で、乙女湖集合ということになりました。

林道はヤマブキやヤマザクラが目につきます。私は山の神やカエル池に立ち寄ってタチツボスマレやマルバスミレ、マルバコンロンソウなど確認しました。カエル池ではヤマアカガエルのオタマジャクシがたくさん泳ぎ回っていました。

サワラ林の所で、植原さん、山本さん、鈴木さんが先着してウスギヨウラクを観察していました。これまで道端の1本しか見ていなかったのが、実は林の中にたくさんあることがわかりました。ちょうど満開で、暗い林の中で上品なクリーム色が美しかったです。ここではウリハダカエデの芽を包んでいた皮がカールしたものも可愛くて、皆でカメラ



ウスギヨウラクの花



ウリハダカエデの芽吹き

を向けてしまいました。林道をさらに登っていくと、ピンク色の濃い桜が所々に咲いています。オオヤマザクラでしょうか。また鮮やかな黄緑色のイタヤカエデ、赤いカジカエデの花も林道沿いで見られました。

焼山峠では、ミヤマスマレがたくさん咲いています。そして今年もフギレミヤマスマレがいくつか咲いてくれました。エイザンスミレ、咲き残りのヒナスミレも可愛かったです。昨年見つけたオクタマスミレは残念ながら、今年は見あたりませんでした。

乙女高原に到着。草原はまだ枯草色で、ところどころにキジムシロやミツバツチグリが咲いているくらいです。森のコースを登って行くと、エイザンスミレが咲いています。美しいピンク色の花がいくつかありま



左からフギレミヤマスマミレ、エイザンスミレ、ヒゴスミレ、サクラスマミレ

した。そしてエゾアオイスミレも終盤ではありましたが、咲いてくれました。なぜか白っぽかったです。薄茶色の粘土細工のようなおもしろい形はムシカリの出始めたばかりの葉です。

展望台周辺ではきれいなピンク色のアケボノスマミレ、明るい紫色の小さなアカネスマミレがありました。ヒゴスミレは咲き終わっていました。この日は曇り空で富士山は見えませんでした。

草原のコースを下って、入りロゲート近くでフデリンドウを数株見つけました。上品な水色の花がいくつか咲いています。寒さのためか葉も蕾も紫がかっていてこれも可愛かったです。

草原を出て、林道を少し歩いてみました。ヒゴスミレが2株、4輪咲いていました。細かく切れ込んだ葉と中心部が緑がかった白いスマミレです。いい匂いもしました。斜面にはアケボノスマミレも咲き始めていました。さらに少し先に進むと、植原さんがちょっと変わったタチツボスマミレを見つめました。同じ株なのに普通の薄紫の花と白い花があります。そしてさらに先の斜面にはマルバスマミレもありました。



フデリンドウの花

ロッジ前にもどり、昼食にしました。別々のベンチで距離をとって食べました。午後はまず、例年早めにスマミレが咲く湿地への道を少し歩いてみました。サクラスマミレが2株、咲いていました。咲き始めて美しかったです。きれいなアカネスマミレもありました。またタチツボスマミレがたくさん咲いていました。



次に四季の森に移動、森の入口近くにもサクラスマミレ、ツボスマミレが咲いていました。遊歩道では、ミヤマスマミレがたくさん見られました。タチツボスマミレ、ヒメイチゲも咲いています。淡いピンク色のヒナスミレもまだ咲き残っていました。途中でひときわピンク色が目立つスマミレがありました。近づいてみるとヒナスミレのようですが、少し花が大きめで葉が丸い感じがです。ヒナとミヤマの交雑かも…と盛り上がりました。後日、植原さんが乙女高原フォーラムで講演をしていただいた、いがりまさしさんに確認したところ、不稔ならば交雑だということなので、花後も観察をしていく必要がありそうです。

塩平方面へ下り、途中の自然観察路入口に寄ってみました。この付近ではフモトスマミレ、エイザンスミレ、アケボノスマミレ、マルバスマミレ、タチツボスマミレ、ヒゲネワチガイソウ、シロバナエンレイソウが見られました。道路わきにはモミジイチゴモも咲いていて、マルハナバチが来ていました。雨が降り始めたので、観察は終了し、塩平のゲートの所で解散となりました。



13種類ものスマミレに出会うことができたスマミレ三昧の一日、そしてスマミレの多様性を感じた一日でした。コロナ禍で訪れる人も少ない乙女高原ですが、季節は確実に進んで、高原は花や昆虫の季節になっていきます。早くコロナが収束して、自由に観察できることを願うばかりです。

黄色いスマミレがいっぱい

6月6日(土)

記事：山本義人

～ 黄色いスマミレ観察ハイキング ～

非常事態宣言はいったん解除されていますが、新型コロナウイルス問題が終息した訳ではありません。各自が自覚しながら徐々に日常に戻していく工夫と努力をしていく必要があると思います。

そのようなステージにあるという認識のもとに、6月第1週に計画されていた観察交流会を兼ねた黄色い

スマレを見に行くハイキングが、一度は中止になっていましたが、観察を継続することや自然の中を歩くことも大切なことだと思い、有志による実施に参加してきましたので、報告します。

いつも通り牧丘の道の駅に8時半集合でした。駐車場はいつもよりずっと少ない数しか駐車できないようになっていました。参加したのは13人で、初めてのメンバーがいるということで順番に自己紹介をしあってからの出発です。ご家族などは別にして、いつもだと相乗りで行くのをやめて、林道ゲート口までそれぞれの車で行くことにしました。

途中の林道では栃の木の花が満開でした。柳平のレンゲツツジが咲いてきているのを横に見て、琴川にかかっている橋のあたりまで行くとアイズシモツケの白い花が満開でした。

一塊の集団にならないように注意しながら林道を歩き始めると、はじめにミヤマハンショウヅルが目につくはずが素通りしてしまい、白花のクリンソウの撮影をしていると何人かが追い付いてきました。さらにその後もまた後続のメンバーとずっと離れてしまいました。次の目当ての場所でミヤマハンショウヅルをまた見過ごしてしまったからです。



ツバメオモトの花



イチヨウランの花



オサバグサの花

でも、同じ道を往復するので、帰りを見つけられることを期待してそのまま進むと、ツバメオモトが咲いていました。その後イチヨウランやオサバグサをたくさん見る事ができました。

また今年初めて1株だけですがタケシマランが咲いているのを見ることができました。

果実をつけているオウレンがたくさんありました。葉っぱをみるとバイカオウレンとセリバオウレンです。ここ奥秩父山系のセリバオウレンはクリーム色の花が咲くウスギオウレンだと思います➡。ミヤマスマレも例年通り咲いていてくれましたが、サクラスマレは見つけれませんでした。



ここまでの林道沿いのカラマツ林が、間伐作業が行われているのか、曇り空なのにいつもより明るく感じました。金峰山の五丈岩と稜線上の朝日岳がよく見えました。

岩壁を越すとよいよ黄色いスマレの自生地に入ります。今年は4月以降たまに暑い日もありましたが概ね寒い日が続き、2、3月の開花は例年以上に早かったものの、桜の季節以降は山の花の開花が遅れているように思います。キバナノコマノツメも遅れているのかちょうど旬といった咲き具合でした。群生地についたのがちょうどお昼で、ランチタイムとなりました。食事をとってから少し先まで散策してから下山、といってもほとんど標高差はありませんが、帰路でミヤマハンショウヅルを見ることができました。

車を止めておいたところまで戻ると、先に戻っていたメンバーから、「ここにもあったよ」と言われた先を見てみると、なんとミヤマハンショウヅルが咲いていました。午後からは雷注意の天気予報でしたが、天気ぐずれることもなく、無事終了となり、現地解散となりました。

帰りがけに乙女高原に立ち寄ってみました。焼山峠では咲き出したレンゲツツジも高原ではまだ蕾でしたが、赤く色づいてきていましたので後数日で咲き出すことでしょう。



「黄色いスマレ」キバナノコマノツメの花。群生する



ミヤマハンショウヅルの花

ヤマアカガエル産卵調査

記事：植原 彰

乙女高原の春といえば、ヤマアカガエルの産卵調査です。7年目を迎えました。今年は2月11日から記録を取り始めました。

産卵を初めて確認したのは(初認日)2月15日でした。旧山口林道途中の「カエル池」です。まさかもう産んでいるとは思いませんでした。9腹ありました。ヤマアカガエルの卵は1頭のメスがひと塊の卵を年に1回だけ産みます。だから「腹」と数えます。池のほとりで調べていたら、水中を泳ぐ親カエルの姿が見られました。ここでは、3月1日の調査で面白い経験をしました。乙女高原に行きながら寄ったら、前回調査から卵は5腹増えていました。なんか予感がして、帰りにも寄ってみたら、さらに2腹増えていました。行って帰る間に産んでいたのです。ここでは今シーズン18腹の卵塊が確認できました。

乙女高原のエリアで初めて卵を見たのは4月5日でした。乙女高原エリアの調査地は3箇所あるのですが、3箇所とも卵塊が見られ、合計11腹ありました。温度を測って見たら、気温は3.1℃、水温(卵塊の中)は4.9℃でした。4月19日にはさらに計2腹、5月2日にはさらに計5腹、5月16日にはさらに計4腹が確認されたので、今シーズンの総合計は22腹となりました。

ところで、3月20日の調査で、調査対象ではない湿地からヤマアカガエルの「ケケケ」という高い声が聞こえてきました。オスがメスの奪い合いをする「カエル合戦」の声です。近づくとカエルたちは鳴き止み、隠れてしまいました。黙ってじっとカエルたちが出てくるのを待ちました。40分たっても、結局出てきませんでした。そこで、この湿地にセンサーカメラを仕掛けることにしました。これならカエルたちの自然な様子が記録できるだろうと考えたのです。

4月5日にカメラを回収し、映像を見ってみました。カエル合戦の様子がバッチリ捉えられていました。満足満足と思っていたら、さらにびっくり。なんと、夜、タヌキが出てきて、カエルの卵を食べていたのです。タヌキがカエルの卵を食べるなんて驚きました。まあ、タヌキは雑食性だし、人間だって魚の卵であるイクラやタラコを食べるのですから、そういうこともあるだろうなと想像できます。それだけではありませんでした。センサーカメラってすごいです。

鳥のカケスが来て、卵を食べている映像までありました。



矢印の先におんぶしているカエルが映っている。
(下の大きなのがメス。上に乗っているのがオス)



タヌキが来て、卵を食べていた。矢印の先が卵塊



矢印の先に、カケスのごましお頭

なお、もう一つ大きな発見がありました。以前から焼山峠の駐車場東側の湿地でもヤマアカガエルが産卵しているのは気づいていました。今年、試しにいくつ卵塊があるのか数えてみました。4月5日、雪の中を調査し歩いたのですが、なんと計46腹もの卵塊が見つかり、びっくりしました。一大産地だったんですね。

年	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
卵塊の総数(腹)	35	42	29	25	35	22	22
乙女高原エリアでの卵塊初認日	4/5	3/31	3/21	4/9	3/25	4/6	4/5

【夏の活動予定】

◎乙女高原案内活動

毎年恒例になった乙女高原案内活動。「コロナ禍だけれども、今年は夏の案内活動はあるのかな？」と思われている方がいるかもしれませんが、**3密に気を付けながら実施します**。花盛りの乙女高原で皆さんとお会いすることを楽しみにしています。10時から3時ころまで、ロッジ前のベンチでお待ちしています。是非お声掛けください。

なお、乙女高原案内人でこの活動に賛同してくださる方はぜひご参加ください。1日だけ、半日だけでも結構です。事務局までご一報ください。

【夏の案内人活動日】

- ① 7月25日(土)
- ② 7月26日(日)
- ③ 8月1日(土)
- ④ 8月2日(日)
- ⑤ 8月8日(土)
- ⑥ 8月9日(日)
- ⑦ 8月10日(月・祝)



マルバダケブキとオオマルハナバチ

◎第18期マルハナバチ調べ隊

マルハナバチ個体数の動向を知ることは、いわば乙女高原の健康診断。未来の乙女高原のために大切な活動です。

～盛夏編～

日時：8月1日(土) 10:00～14:30頃 雨天中止
 集合：乙女高原グリーンロッジ
 持ち物：弁当・水筒・筆記用具・腕時計・タイマーなど
 時間が分かるもの
 参加費：無料



ノハラアザミとミヤママルハナバチ

～初秋編～

日時：9月5日(土) 10:00～14:30 ※場所・持ち物などは、盛夏編と同じです。

*いずれも、屋外での、人と人の距離をとっての活動ですが、念のため、マスクをご持参ください。



**夏でも涼しい乙女高原へお出かけください
 たくさんのお花や虫たちが迎えてくれます**



乙女高原ファンクラブではインターネットを活用した情報発信・情報提供をしています。ご活用ください。

- ① ホームページ・・・乙女高原 **検索** または <http://fruits.jp/~otomefc/>
- ② メールマガジンの配信・・・不定期。配信希望の方は otomefc@fruits.jp までメールを
- ③ 活動ブログ・・・ホームページからリンクまたは <https://blog.goo.ne.jp/otomefcact>
- ④ 観察ブログ・・・ホームページからリンクまたは <https://blog.goo.ne.jp/otomefc>
- ⑤ 乙女高原後援会・・・SNS フェイスブックの公開グループ。

乙女高原ファンクラブの事務局だよ

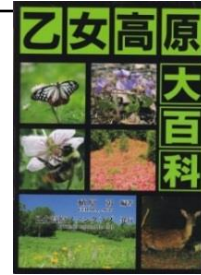
※ML434号まで掲載済

- 今号は、編集長:井上敬子さん、執筆・編集:井上敬子さん、鈴木辰三さん、山本義人さん、植原 彰さん、印刷:芳賀月子さん、三枝かめよさん、発送:芳賀月子さん…という協働作業で作られました。皆さん、ご苦労様でした。
- 発送係を募集します 宅配便で印刷した会報と封筒をお送りするので、詰めて投函する作業です。在宅でできます。

乙女高原ファンクラブの刊行物

乙女高原とファンクラブ11年間の集大成『乙女高原大百科』

(A5判 602頁)草刈り開始後から配信している乙女高原メールマガジン 11年間 268号の中身を編集したら厚さ3cmの本になってしまいました。一部カラー。希望者には実費でお分けします。1冊2,000円、送料は1・2冊なら360円。欲しい方は郵便振込で1冊なら2,360円送金してください。



乙女高原インタープリテーションのテキスト『乙女高原案内人 誕生と成長の記録』

(A4判 186頁)乙女高原案内人養成講座の中身と、その後の案内人の活動の様子を一冊の本にしました。希望者には実費でお分けします。→在庫切れ

乙女高原フィールドガイド シリーズ

欲しい方は事務局までご連絡ください。



フィールドガイドIII スミレの観察のおともに

『乙女高原のスマレ・ウォッチング』

(A3判両面カラー)乙女高原では、なんと18種類ものスマレを観察できます。このフィールドガイドでは乙女で見られるスマレたちのプロフィールを紹介するとともに、スマレ観察のポイントをていねいに解説しました。

フィールドガイドII マルハナバチの観察と調査のおともに 『マルハナバチ ウォッチング改訂新版』

(A3判両面カラー)マルハナバチの生態、ファンクラブで行っている調査、乙女高原で見られる6種(+2種)のマルハナバチの見分け方をコンパクトにまとめました。2015年に改訂版を出しました。

フィールドガイドI 春から夏にかけて咲く草花のガイド 『乙女高原のお花たち』

(A3判両面カラー)フィールドガイド第1号。春から秋に咲く47種類の草花を写真つきでコンパクトに紹介。草丈表示と草花の一言コメントが「分かりやすい」と評判です。2013年6月に第3版発行。

■乙女高原ファンクラブの普通会員になりませんか？

『数は力』という側面もあります。ファンクラブの会員が多くなれば、それだけ乙女高原の保全に対するファンクラブの発言力が増します。まわりの方をファンクラブに『巻き込む』ことも乙女高原を守る活動の一つです。まわりの方にファンクラブをお勧めください。

乙女高原ファンクラブに入会するには・・・

- ・「入会します 氏名・郵便番号・住所・電話番号」というファックス、メール、手紙等を事務局までお届けいただければ、いつでも、だれでも会員になれます。
- ・入会金も年会費もありません。乙女高原を守る力が1人分、大きくなります。
- ・普通会員には年4回、サポーター会員には年1回、ニュースレターが届きます。
- ・普通会員には総会出席の義務がありますが(委任状可)、サポーター会員にはありません。

今号は普通会員のみに
お送りしています。

■乙女高原ファンクラブへの連絡先■

【事務局】植原 彰(方) 〒404-0013 山梨県山梨市牧丘町窪平 1110-3

TEL/FAX 0553-35-3682 電子メール otomefc@fruits.jp

※会報への原稿や写真等の投稿もこちらにお送りください。

WEB <http://fruits.jp/~otomefc/>

●郵便振込● (番号)00220-8-71093 (加入者名)乙女高原ファンクラブ